

2017年4月14日～29日に開催した配慮書に関する説明会で頂戴しました
ご質問およびアンケートに記載いただいたご質問に対するご回答

1. 横浜研究拠点について	P.1
2. 安全・環境に関わる計画	P.11
3. 地域貢献に関する計画	P.25
4. 今後のスケジュール	P.30
5. その他	P.33

1. 横浜研究拠点について

Q 西側敷地北側の研究棟と敷地北側のマンションの距離は何 m になりますか。また、建物の高さはかさ上げ 2m の上に 31m の建物を建てるということを伺いましたので日立製作所の建物より高くなる計画だと思えます。このマンションの日照にどの程度、影響するのか教えてください。

A 西側敷地の北側研究棟は、日立製作所の建物とほぼ同じ位置に建設することを予定しています。北側マンションとの離隔は約 65～70m になります。建物は約 2m 高くなりますが、北側のマンションの日影については、現在検討している棟の位置・高さでは、影響はないと考えています。

Q 土地のかさ上げについて話がありましたが、どの程度かさ上げするのか教えてください。

A かさ上げの考え方でございますが、柏尾川が万が一氾濫しても、研究所が水に浸からないことを想定し、西側敷地は最大 2m、東側敷地は西側敷地よりも土地が高いため、50 cm程度を予定しています。

Q 建物の高さについて、日立製作所の中には、西側敷地に技術棟といわれる一番高い 31m の建物がありました。他の建物は低い状況でした。また、東側敷地についても 4 階くらいの建物が一番高い建物でした。今回の計画の研究棟は全て 31m の高さになるのでしょうか。今回の計画を聞き、この周辺の景観が変わってきてしまうと感じています。

A 弊社が新しくすりを研究・開発するための研究機能を満たすには、31m の建物を建てさせていただきたいと考えています。この計画を進めさせていただくために、研究棟は周辺のマンションの外壁からは 50m 以上離すように建物を配置すること、建物の外観デザインを工夫することや緑道の配置により、建物が高くなったことを和らげるように努めます。この戸塚の地から、まだ治療法のない多くの病気に対する画期的なくすりの研究・開発を行い、世界の患者さんに貢献していきたいと考えています。

Q 西側敷地、西側道路面にある 4 つの建物が 31m で並ぶことになるが、これは決定していることなのでしょうか。また、圧迫感はどのようになるとお考えでしょうか。

A ご指摘の点については、現在計画している研究機能を配置することを考えると、建物の高さについては、31m の高さとさせていただきたいと考えております。圧迫感を少しでも抑えるようにデザインを考えると、マンションに近い建物については、4 つの分棟形式をとること、マンションの外壁との距離を 50m 以上とるなどの対策を少なくとも実施していきたいと考えています。

Q 高さ 31m は、マンションの高さにすると何階に相当しますか。

A 一般的なマンションにすると 10 階程度に相当します。

Q 西側敷地の西側のマンションは、現在は朝日が入るが、建設後、朝日は入るのですか。

A 研究エリアの棟の最終的な位置が確定しましたら、改めてご案内させ

ていただきますが、現時点のシミュレーションでは、冬至の時は、朝 9:30 頃まで影響がありますが、9:30 以降、影響はありません。2017 年秋頃に予定している説明会でご説明させていただきます。

Q 騒音について、研究所なのでそれほど無いと思いますが確認させて下さい。また、建物高さが最大で 31m、一般的なマンションに例えると 10 階程度とお話がありました。最大で 31m であることを再確認させて下さい

A 騒音につきましては、決められている基準以下にすることをお約束し、近隣の皆さまにご迷惑をかけることの無い様に致します。建物の高さにつきましては、一番高い建物で地面から31m でございます。また、全ての建物が 31m というのではなく、会議エリアや地域開放エリア等は、31m 以下の低層を予定しています。東側敷地の研究エリアにつきましては建物高さ 31m を予定しております。

Q 地域開放エリアの棟と向かいのマンションとの距離、棟の高さについて確認させて下さい。また、距離については、西側敷地の西側に隣接している他マンションと合わせることは出来ないでしょうか。

A 地域開放エリアから前面のマンションまでの距離は、現在の計画で約 22 メートルです。この施設の建物については、15m の計画ですが、高さを低くする、一部平屋にする等の検討をしております。次回の説明会で詳細な建設計画をご案内したいと考えています。

Q 地域開放エリアもかさ上げ 2m後、その上に 15mの建物が建つのでしょうか。

A 地域開放エリアのかさ上げは 1.5m の計画です。建物の高さについては、現在の計画よりも低くする方向で検討しています。

Q 東側敷地の研究施設予定地の建物は、日立製作所はあまり高い建物で操業していませんでした。高さは同じ程度と考えて良いですか。また、建設許可の範囲は何 m か教えて下さい。

A 東側敷地の研究施設予定地に計画する建物については、今後の検討となりますので、まだ建物の高さはご説明できません。計画を行った際に、決まりましたら、改めて説明会等でご案内させていただきます。なお、建設可能な建物の最大高さは 31m となっています。

Q 東側敷地の研究施設予定地についても 31m の計画をしているのですか。

A 研究施設予定地にどのような建物を建設するかについては、今回の第 1 期の計画が完了後に検討していくこととなりますので、明確な回答は現時点ではできない状況です。景観につきましては、なるべく皆さまのご迷惑にならないように進めていきたいと考えています。

Q 建物の高さについては、日立製作所があった時と大幅に異なることから住民との間で話し合いが必要と思いますが、どのように進めようとしていますか。

A 建物の高さが近隣の方々に与える影響については、できる限り周辺のマンション等から離し、緑道を設けるなど可能な限りの対策をとっていきます。計画の状況については、今後の説明会で進捗をご報告しながら、住民の皆さまと対話を重ねていきたいと考えております。

Q 西側敷地の 5 つのそれぞれの研究棟での研究内容(機能)はどのようなものでしょうか。また、まだ検討中であればいつごろ決まるのでしょうか。

A 創薬研究、開発研究を行うことは決まっていますが、さらに詳細については、まだ決まっていません。2018 年末に土地の引渡しがありますので、その後になる予定です。詳細な研究棟での業務内容については、2019 年中旬の着工の頃にはご説明できるようにして行きたいと考えております。ただし、エネルギー棟、動物飼育棟などの大きな枠につい

ては決まり次第ご説明していきますが、各機能の詳細は事業計画にも関わるため、開示できない部分もあると思います。この点についてはご了承いただければ幸いです。

Q 研究エリアの棟には西側に向けた窓が設置されるのか確認させて下さい。

A 研究エリアの棟には、西側に向けた光を入れる窓を設置する計画です。ただし、窓に面した場所に研究室は配置せず、廊下などを配置すること、デザインで配慮を行うなど、住民の皆さまとなるべく目が合う事がないように検討していきたいと考えています。2017 年秋の説明会時にはより詳細な案をご案内させていただきます。

Q 研究施設の窓の仕上げについて、日立製作所の高層の建物は鏡面仕上げとなっており、対面するマンション側からは中が見えない様に配慮されていました。今回建設される建物についても工夫していただきたいと思います。

A 研究棟には窓は設ける予定ですが、周囲の住民の皆さんと直接目が合うことがないなどデザインを考えていきます。

Q 公園の建設、道路の拡幅については、とても有難い。日立製作所の外壁はかなり古いフェンスであり、自治会の中では地震で倒壊すると心配している。日立製作所の外壁はいつ頃まで残るのですか。

A 日立製作所の外壁は、竣工時までには解体・撤去を予定しています。詳しい時期につきましては、施工会社もまだ決まっておきませんので、確定した後の説明会でご案内させていただきます。

Q 研究エリアの棟と緑道の間にはフェンスが設置されると思うが、どのようなフェンスを予定しているのですか。

A 研究棟と緑道の境界にフェンスを設置する予定です。デザインにつき

ましては、景観を損なわない、優しいトーンを考えています。

Q 電力の供給方法については、日立製作所の対応と異なるのでしょうか。日立製作所では、高電圧で敷地内に引き込みを行い、内部で変電していたため、低電圧の周辺の住宅へは、万が一事業所内が停電になった時も影響が少ない形式をとっていたようです。

A 弊社と東京電力の間でどのような電力供給体制をとるかについては検討中ですが、西側敷地にて特別電圧で引き込み、エネルギー棟で変電して使用することで、周辺にご迷惑がかからないようにする計画としています。

Q 西側敷地北東の市道の仮橋の場所はどのような計画になっているのでしょうか。

A ご指摘の場所については、横浜市にお貸ししています。土地が弊社に返還された後に計画を検討していく予定です。

Q 東側敷地の川沿いに日立製作所が植えていたような桜を植える予定はありますか。また、グラウンド南側は植栽の予定はありますか。木がなくなったことでカラスなどの野鳥が柏尾川沿いの木々に集まっているため、この鳥がとまれる木を植えてほしいと思います。

A ご意見・ご要望として承らせていただきます。なお、植栽については、種類・場所について現在検討しております。

Q 現在、土地が露出しているため、大雨が降ると水たまりが発生しています。建築後は地盤を整地し水たまりができないような対策を実施するのでしょうか。

A 建築後については、地盤を整地するため、長期間水たまりが発生する

ようなことはない様に対策を行います。なお、現在発生している水たまりに関するご心配については、日立製作所にお伝えさせていただきます。

Q 研究所ができることは理解できました。研究所では、何人ぐらいの研究者が働き、何人ぐらいの人が地元に住むのか教えてください。

A 横浜研究拠点で働く研究員の人数については、まだ確定していません。研究所としましては、1,000 名規模で研究開発活動を行うことを想定した施設としています。また、横浜研究拠点周辺に住む人数につきましては、現時点では不明でございます。

Q 研究所では 1,000 人程度の従業員が働くことができると伺いましたが、戸塚駅周辺の混雑がどのようになるか心配です。中外製薬の始業・終業時間、時差出勤などのルールを教えてください。

A 標準労働時間帯については、8:45～17:30 になっていますが、研究所では大部分の従業員が裁量労働制をとっており、個々人で始業・終業を決めることができるため、一度に出勤等が集中することは少ないと考えます。

Q 社員の出入口はどこに、何ヶ所設ける計画ですか。

A 敷地の出入口は、西側敷地については、南北の 2 か所、東側敷地については、西側に 3 か所を計画しています。

Q 来訪者数等はどのくらいを想定しているのでしょうか。

A 来訪者は、主に共同で研究を行う外部研究機関の方々や、研究拠点の活動を支援いただける協力会社の担当者となります。人数の詳細については、現時点では未定です。

Q 横浜研究拠点で働く従業員の通勤手段について教えてください。

A 横浜研究拠点で働く従業員の通勤手段につきましては、公共交通機関を利用することを予定しています。

Q 研究所の稼働は 24 時間でしょうか。

A 研究所内で何らかの研究は 24 時間続いております。

Q 研究所で働く従業員は土日にも働くケースが多いのでしょうか。

A 基本的に土日は休日となっていますが、研究内容によっては、毎日メンテナンスが発生することから必要に応じて出社する場合があります。

Q 夕方のブラインドを下ろす時間を教えてください。

A ブラインドの設置の有無を含め、今後検討していきます。

Q 車両の出入り口、大型車両の出入りの有無など(建設後)はどのようになりますか。

A 建設後の車両の出入口は北側と南側に 2 箇所設置する予定です。それぞれの利用方法や大型車両の出入り方法につきましては今後、詳細検討してまいります。

Q かさ上げをするとのことですが、工事の土砂と搬入経路について教えてください。

A 可能な限り敷地内の土砂を活用したいと考えておりますが、それだけでは足りない場合、工事用車両が周辺を通行することが想定されます。まだ施工会社が決まっていないため、決定した段階で工事計画を説明させていただき、通学時間とずらすなどができるかなど、皆さまに相談させていただきながら計画したいと考えます。

Q できれば日立製作所の事業所であった時の北側の正門から入っていただき、ダンプカーなどが西側の道路を通らないようにするなど、騒音や事故の発生を未然に防ぐことが重要ではないでしょうか。

A いただきましたご意見については、配慮していきたいと思えます。

Q 中外製薬と自治体との間で工事協定書などを締結する予定がありますか。その内容は住民に情報開示しますか。

A 現時点でご要望や予定はありません。ご意見として頂戴いたします。

Q 新研究所では、他の研究所で行われている実績のある研究を行うのでしょうか。

A 現在、弊社の各研究所で実績のある研究を予定しております。

Q なぜ鎌倉の土地をある程度減らしてまで、戸塚に来る意味があるのか。鎌倉と戸塚では、東京・横浜へ行くのに利便性に変わりはないのではないのでしょうか。

A 現時点で鎌倉研究所を将来どのようにしていくかは決まっておられません。横浜市生命関連企業に対する政策なども総合的に判断して、立地を検討して参りました。この戸塚の地で、皆さんのお役に立ちながら、世界の医療、そして地域の皆さんをはじめ、人々の健康に貢献できるようなお薬をつくっていきたくて考えています。

Q 町の中心に実験施設を建設する必要がありますか。この土地を選択した理由を教えてください。

A 戸塚区マスタープランにおいて、柏尾川周辺の該当のゾーンは産業集積地区として、生産・研究開発機能を維持しつつ、さらに高度化や先端

技術産業の集積を図る地区とされていることから、弊社の研究拠点の計画構想に大変ふさわしいと考えたことに加え、弊社が今後飛躍的に発展するために必要な研究基盤の強化において、優秀な人材の確保は大きな課題となっており、都心から近く、空港からも近いなど、この立地が国内外の研究者から魅力的であることも建設候補地として取得に至った理由となります。皆さんのお役に立ちながら、世界の医療、そして皆さんをはじめ、人々の健康に貢献できるようなお薬をこの地から作っていきたいと考えています。

Q 補助金(免税)があるから建設の計画をしたのでしょうか。

A 横浜市補助金があることが直接的な本横浜研究拠点の計画の理由ではございません。

2. 安全・環境に関わる計画

Q 建物からの排気について、どちらの向きに排気されるのか検討しているのならば教えて下さい。季節により風向きは変わりますが、考慮されていますでしょうか。

A 排気口の向きは、まだ検討中です。ご指摘の点も考慮し、今後検討していきます。

Q スクラバーで捕捉されない、水にとけない有機溶媒の排気対策はどのように対応するのでしょうか。

A 地排気対策としては、使用する溶媒に応じて、スクラバーに加えて、高性能フィルタなどを活用し、対策を講じる計画です。

Q 排水処理施設は、具体的にどこに設置するのですか。

A エネルギー棟の地下に予定しています。各研究棟からの排水は、このエネルギー棟の地下の排水処理施設に集め、適正な処理の後、公共下水道に流す予定です。

Q 排水処理後の水は、現在も水路に放流しているのでしょうか。

A これまでの日立製作所も、排水処理後の排水に関しては公共下水道に流していると聞いています。弊社の研究拠点建設後についても、排水処理後の排水は、公共の下水道に流す計画であり、川や水路等に放流する計画ではありません。

Q 2014 年の台風 18 号時の氾濫は、柏尾川に流入できなくなった下水道があふれたことによる内水氾濫といわれています。その時は住友電工の敷地に水が流れたので、この地域の被害は比較的少なく済んだようです。今後建設される敷地周辺の都市計画道路は現在より 60 cm 高くなる予定であり、地域の雨水対策は公共の雨水管のみが頼りですが、横浜市はこの雨水管を増強することは難しいと回答していることから、集中豪雨時の洪水が心配です。そこで地域のために、中外製薬の敷地内に周囲の雨水を吸収できるような施設を設けることができないか検討いただけないでしょうか。

A 雨水対策につきましては、弊社の敷地内に降った雨水について一時貯めることができるように、敷地地下に約 6000 トンの雨水抑制槽を設けて、2014 年の台風時の日降雨量を上回る雨が降っても直接公共下水道に流入しないようにすることで、近隣にご迷惑がかからないようにしていきます。地域の雨水を吸収する施設対策に関しては対応が難しいと考えますが、ご要望として承らせていただきます。

Q 御社は 2m のかさ上げとなるそうですが、柏尾川は大雨の時、川があふれるのではなく下水から逆流して水が出ます。その分、まわりの水の逃げ道がなくなると思いますが何か対策をお考えでしょうか。

A 雨水対策につきましては、弊社の敷地内に降った雨水について一時貯めることができるように、敷地地下に約 6000 トンの雨水抑制槽を設けて、2014 年の台風時の日降雨量を上回る雨が降っても直接公共下水道に流入しないようにすることで、近隣にご迷惑がかからないようにしていきます。

Q 西側敷地の北側道路付近は近隣より地盤が低く、日立製作所の敷地にある壁が、防潮堤のような役割をしていました。中外製薬は同様の壁を設ける予定がありますか。

A 敷地内はかさ上げをし、対策を講じますが、敷地境界に洪水時の雨水をせき止める機能を有するような壁を設ける予定はありません。

Q 緑道はコンクリート敷ですか。水はけがどのようになるのか気になります。

A 緑道については、現在計画中ですが、水はけについても留意いたします。

Q 排水・排気等の計画について、従業員の人的ミス(トイレに薬品を流す等)について、どうやってリスク回避するのですか。

A 薬品は実験室で使用いたしますので、人的ミスによってトイレに薬品を流してしまうようなことは、通常ありません。故意にトイレに流すような行為はあってはなりませんので、従業員の倫理教育を行うことで防止していきます。

Q 騒音・排気ガスが気になります。駐車場は西側敷地の南側以外には設置予定はありませんか。

A 時間貸し駐車場は西側敷地南側に設置を予定しています。その他、グラウンド利用者用の駐車場を東側敷地南側に設置します。また、事業所を開発するうえで、条例等で設置が必須となります附置義務駐車場は敷地内に分散して設置を予定しております。なお、従業員は原則公共交通機関を利用する計画としております。事業所に関係する車による騒音、排気ガスで近隣の皆さまにご迷惑をおかけしないよう留意して運営していきます。

Q 排水・排気の方式は、既に中外製薬で実績のあるものでしょうか。過去のトラブルの対策も汲み取っているということでしょうか。

A いずれも弊社の研究所で既に実績があり、安全に運営されている技術でございます。ただ、まだ施工までに数年あることから、新しくよりよい技術が開発されれば、その採用も検討してまいります。また、トラブルへの対策も考慮したものになっています。

Q 製薬会社の有害排気対策は厳しく実施されていると聞いていますが、詳細を確認させてください。

A 中外製薬グループでは大気汚染防止法や都道府県条例に基づき、窒素酸化物(NO_x)・硫黄酸化物(SO_x)・ばいじんの排出量を測定し、排出基準に適合していることを確認した上で排出を行っています。現在、各事業所から排出される大気汚染物質はいずれの事業所においても環境基準値を下回る数値で推移しています。

Q 産業廃棄物の処理は施設内で行わないことは理解できました。産業廃棄物の会社に出す前に、施設内で一時保管をしたいと思います。どの場所に一時保管し、どのような会社に処理を依頼するのか教えて下さい。

A 廃棄物は、一度、研究所内で分別し、外部からは入室が出来ない、セキュリティ管理をしっかり行っている場所で保管・管理します。その後、産業廃棄物処理専門の会社に回収いただくことを考えています。

Q 廃棄物はどこか1ヶ所に一時保管することでは無いという理解でよろしいでしょうか。

A はい、その通りでございます。

Q 廃棄物処理業者とはどのような業者を言いますか。

A 廃棄物の処理について公的に認可を受けた会社です。

Q 危険物処理業者を明示し、教えてください。

A 現時点では危険物を含めた廃棄物処理業者の委託先は決まっていません。

Q 廃棄物を搬出する大型車両が通る道はどの道路になりますか。また、頻度が分かれば教えて下さい

A 西側敷地から搬出される廃棄物は南側の出入口から搬出されますので、マンションの前の道路を通ることもあるかと思えます。大型車両の通行頻度については、週に数回程度になると思えます。

Q 鎌倉研究所では今も敷地内でゴミの焼却をしているのでしょうか。

A 鎌倉研究所では、焼却炉を有していません。

Q 廃棄物処理会社が引き取った後のRI/動物の最終処理方法を教えてください。

A 委託する廃棄物処理会社がまだ決まっていないため、処理方法についてお答えできませんが、公的に認可を受けた処理会社に委託し、適切に処理いたします。

Q 道路拡幅によって、戸塚町和田町町内会など離れたエリアへの交通量の影響が出ますか。

A 建物の建設や道路幅の変更による影響については、環境影響評価において検討を予定しています。調査範囲に関しては行政と協議のうえ決定し、調査結果については今後の説明会でご報告いたします。

Q 本研究所のような研究内容の事業所はセキュリティカードだけでなく生体認証の検討なども必要なではありませんか。

A セキュリティカードだけではなく、生体認証や最新のセキュリティを導入することも検討いたします。

Q 日立製作所は独自の消火隊を組織していましたが中外製薬はどのように考えていますか。

A 弊社において、大きな事業所では、自衛消防隊を組織しています。横浜研究拠点におきましても弊社の他事業所同様に自衛消防隊を組織することを考えています。

Q マンションを購入する時、日立製作所の防火水槽を利用していると聞きました。中外製薬が土地を所有した後の防火水槽の設置場所と近隣が利用できるかについて教えてください。

A 西側敷地の防火水槽は、東西にそれぞれ3ヶ所設置する計画です。万が一、近隣で火災が発生した場合に使用いただけるように検討しています。2017 年秋頃に予定している説明会でご説明出来ると考えています。

Q 火災の時、住民は避難しないといけないほどになりますか。

A 火災が起こることがないように事業所管理を徹底していきます。万が一の火災等への対応については、建物自体での防火区画設置により延焼を防ぐことや、最新の警報設備や消火システムの採用、防火水槽、自衛消防隊なども設置し、初期の段階で対応をとれるように計画します。また、火災が発生した場合には、関係諸官庁や消防などにいち早く報告・連絡致します。近隣の皆さまへの連絡方法につきましては、今後どのような体制を構築するかも含めご相談させて頂ければと思います。

Q 産業廃棄物処理計画について、万が一問題が発生した時の住民への連絡方法について確認させて下さい。

A 万が一事故が発生した場合には、関係諸官庁や消防などにいち早く報告・連絡致します。近隣の皆さまへの連絡方法につきましては、体制を構築することを検討していきます。

Q 施設内で研究のために飼育する動物は、どのような種類で、どの程度の数を飼育するのか教えてください。

A 実験動物として供給されるラット、マウス、イヌ、サルなどを使用する予定です。飼育数は研究の状況で異なりますので、現時点で回答することはできません。ご了解いただきますようお願いいたします。

Q 施設内で研究のために飼育する動物は、どのような種類か教えて下さい。また、万が一逃げたときの対策はどのように行っているか教えて下さい。

A 実験動物として供給されるラット、マウス、イヌ、サルなどを使用する予定です。動物の逃亡は建物内でも発生しない様に厳格に管理し、建物の外に出るまでに 3 つ以上の扉を配置して近接した扉が同時に開かないようにするなどの対策も講じていきます。

Q 動物のにおいがすることは本当にはないのですか。

A 臭気が発生する研究室からの排気は、その性質に合わせた高性能フィルタ等を通して排気します。

Q 停電時にセキュリティ施設が開錠し、動物が逃げてしまうことがないのか。

A 停電で動物室の扉が自動的に開くようなことはありません。セキュリティについては、停電に対して非常電源にてバックアップされますので、機能は維持されます。

Q 土日などの休日も動物の管理は必要になると思いますので警備員だけではなく、研究の専門の方が、万が一の対応を出来るような体制の構築をお願いいたします。

A 動物の管理体制は、とても重要なことであると考えており、24 時間 365 日管理が必要になると認識しています。なお、弊社は、「AAALAC International (*)」からの認証を得て、指導等に基づき、適正に管理していく考えです。

* 国際実験動物ケア評価認証協会

Q 実験用動物の研究棟への搬出入は、どのように行いますか。

A 搬出入につきましては、トラックで輸送し、施設内で受け入れ・引き渡しを行うことで、皆さまの目に触れないようにいたします。

Q 感染症法一種～三種病原体について、東側敷地についても取り扱わないのでしょうか。

A 感染症法で許可、届出が必要となる一種～三種病原体の取扱いは東側敷地も同様に実施する予定はございません。

Q 感染症法四種病原体は取り扱うとのことですが、蚊が媒介するなど昆虫を扱うようなケースもあると思います。このような昆虫などを取り扱うことがある、もしくは将来計画がありますか。もし取り扱うのなら排水口の点検などをどのように取り扱う予定でしょうか。

A 四種病原体にはインフルエンザウイルス、デング熱ウイルス、赤痢などがありますが、この研究施設では取り扱うことはありません。また昆虫を使用した実験につきましては、弊社の研究全体でも行っておりません。

Q 新型インフルエンザも四種病原体にあたるとはと思いますが、この病原体を用いた研究の予定はありますか。

A 現在計画している研究はありません。今後も予定していません。

Q RI(放射性同位体)とはどのようなものでしょうか。

A RI とは放射性同位体(ラジオアイソトープ)の略称です。陽子の数が同じで中性子の数が異なっている原子の仲間のことを同位体(アイソトープ)と言いますが、その中でも自ら放射線を出して他の種類の原子核に変わる原子のことを RI と呼びます。この RI の特性を利用して、

薬の動きや効果を調べる実験を予定しています。

Q RI を研究施設内で扱うことがありますか。

A RI は必要に応じて扱う予定です。病気の原因となる分子の探索や、創り出した薬の候補物質の目印としてこの RI を使います。また、RI を代替できるような技術も進んできており、代替可能な実験は RI を使用せず、新しい技術に置き換えていきます。

Q RI実験室の排気対策にあったフィルタの施設を動かすための電力供給の能力と、建物外壁が壊れた場合など万が一の場合に、施設からウイルス等が流出しないような対応について教えてください。

A 非常用発電設備の燃料として、重油を 72 時間供給可能な容量を確保致します。また、ガスが途絶えなければ非常用の電力供給が継続するように計画しています。万が一の対応は非常に難しいですが、免震構造の建物とし、施設の安全性を高め対策を厳格に実施していくことで、ご指摘のようなことが起きないように対策していきたいと考えております。

Q 研究所で使用する放射性同位体と原子力発電所で使用する放射性同位体とはどう違うのでしょうか。

A 病気の原因となる分子の探索や、創り出した薬の候補物質の目印としてこの RI を使います。RI の取扱量は病院などで使用される量と同レベルです。

Q RIでの被爆に対する保険は入っていますか。

A 契約先との関係により、保険の加入の有無については、回答を差し控させていただきます。

Q RI排気施設のバックアップ対応については説明がりましたが、その他の安全対策の施設には何かバックアップがあるのか教えてください。

A 重要な設備には全てバックアップを設けております。

Q 中外製薬の他の研究施設で、排水や排気に関する事故などはこれまでありませんでしたか。

A 大きなトラブルはございません。

Q 事故時の近隣住民への周知方法について確認させて下さい。

A 万が一事故が発生した場合には、関係諸官庁や消防などにいち早く報告・連絡いたします。近隣の皆さまへの連絡方法につきましては、体制を構築することを検討していきます。

Q 情報公開について、線量のモニタリング結果などはどのように公開していくのでしょうか。

A 情報開示につきましては、近隣の皆さまとご相談・協議させていただいて、どのような内容をどのような方法で開示していくのが良いかを検討させていただきたいと考えています。

Q 安全対策(水質、排気、廃棄物処理の状況等)について、第三者のチェックが入るのでしょうか。

A 現在は、第三者のチェックまでは検討していません。情報の開示については皆さまや行政とどのような内容やどのような方法が良いのかご相談・協議させていただきたいと考えています。

Q 排水・排気・防災の対応について、しっかりやった・やっているという説明をされると思うが、建設時および稼働時に第三者が

確認、その経過や結果を公開(リリース)することを考えているのか教えてください。

A 情報開示について、地域の方々との話し合いを通して、どのようにしていくか検討し、連絡会のような場を設け、運営状況、実施してきている対策が皆さまに分かるようにしていきたいと考えています。

Q ウイルスや RI を取り扱う施設が老朽化した時の事故が不安です。改修予定のアナウンスはどのようにしますか。

A 近隣の皆さまへの連絡方法につきましては、今後どのような体制を構築するかも含めご相談させて頂ければと思います。

Q 薬品について適切な管理を行うとのことでしたが、災害で万が一漏れた時に人体への影響について教えてください。

A 薬品については様々な種類がありますが、法令で規制されている薬品(たとえば、毒物・劇物など)は、事故がない様に法令に則り保管の際の安全対策をしており、新しい研究所でも実施していきます。なお、東日本大震災や南海トラフ地震クラスの地震があった時でも、建物が倒壊しないように建設していきます。万が一トラブルが発生した場合は、速やかに情報を開示し、対策を講じます。

Q 建物は免震の構造となっていますが、配管の接続部の地震対策についても教えてください。

A 建物間の配管はフレキシブルチューブという地震の際にも配管が柔軟に動く部材を用いて接続いたします。配管の接続部で漏れないように施工・建設をしていきます。

Q 治療法が確立していないエボラやエイズのウイルスが外部に漏れるなどの想定外の事故が起きないようにしてほしいです。

また、戸塚区は横須賀基地の飛行機の飛行ルートである。飛行機の墜落や北朝鮮のミサイルが飛来した等の想定外のことも考えて管理してほしいです。

A 感染症法で許可や届出が必要な病原体は取り扱いません。P3・P4*施設の設置は現在、計画には入っておりません。P2*施設は設置する予定になっております。主に遺伝子組換え実験を実施しますが、取り扱う区域を定め、十分な教育を受けた者が取り扱います。処理に関しましても、法規制に則り施設の外に出す前に滅菌処理を行います。弊社の内部では想定外の事故が起きないように管理を徹底していきませんが、外部起因の想定外の事故が起きた場合には、関係諸官庁や消防などにいち早く報告・連絡いたします。近隣の皆さまへの連絡方法につきましては、体制を構築することを検討していきます。

*「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令」(平成十六年一月二十九日文部科学省・環境省令第一号)によって定められている拡散防止措置の区分で、その内容については本省令の別表第二にまとめられています(<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H16/H16F20002005001.html>)。

Q 想定外の災害として、例えば、東日本大震災以上だと被害が出るなど考えられることを教えて下さい。

A 現時点で、想定できる災害については、設計会社と相談して対応できるようにしていきます。

Q 万が一地震で研究棟が倒壊した際のウイルス・細菌・動物などの対策について確認させて下さい。

A 東日本大震災など現在想定できる災害について対応出来るよう建物を免震構造にいたします。また想定外の災害につきましても社内でも様々な視点で継続して検討していきます。

Q 西側敷地の北側に位置するマンションに居住しています。今回も敷地北側のほぼ同様の場所に同じくらいの高さの研究棟が建つ計画となっていますが、その理解でよろしいでしょうか。これまであった日立製作所の北側の高層の建物の外壁に前面

道路の自動車の騒音が反射することで、夏など窓を開けるとテレビの音が聞こえないほど(80dB程度の音圧ではないかと想像しています)の状況でした。建設後に発生する騒音は横浜市の基準を守っていただくようお願いいたします。現時点で騒音の対策として、建物の外壁に吸音設備を施すなど考えられていますか。

- A 建物の高さは、現在の土地から 2mかさ上げした上に日立製作所と同じ高さ(31m)の建物を建設することから、これまでの建物より2m高いものになります。弊社の敷地内から発生する音は法律の基準以下になるように防音対策等を実施してまいります。前面道路を通行する自動車の環境音がどの程度になるかは明確な測定値を持ち合わせていないため、お答えすることはできません。弊社の研究施設から発生する騒音の対策をしていくということになることをご理解下さい。

Q 建設時の騒音はどの程度ですか。

- A 現時点では施工会社が未定であるため、回答することが出来かねますが、できる限り周辺にご迷惑をかけないように工事を進めていきます。

Q 工事の振動等で近隣の建物にひび割れ等が発生しないでしょうか。

- A 施工会社が決まっていないため、決定した段階で工事計画を説明させていただきますが、周辺の建物等への影響が発生しないように、法令で定められた振動基準を遵守して工事を進めるようにいたします。

Q 現在、東側敷地で解体が進む中で、砂埃が舞って困っています。中外製薬の工事での問題点の問合せ先は案内していただけますか。

- A 工事が始まりましたら、窓口を設置することを計画いたします。

3. 地域貢献に関する計画

Q 地域住民への貢献として、西側敷地の西側道路の幅が 12m に広げることは有りがたいです。広がった後の道は県に移管されるのでしょうか。

A 道路の幅を広げることについては、横浜市と相談して進めています。広がった後は横浜市に移管していきます。

Q 東側敷地の道路拡幅はこの部分だけ広げても意味が無いと思います。具体的にどのような計画なのでしょう。

A ご意見として承ります。東側敷地の西側道路は歩道が狭い状況ですので、歩道の幅を広げることを中心に 12m まで道路幅を広げる計画です。現状での車道の拡幅は道路を湾曲させることとなり、難しいようです。

Q 地域開放エリアについて、現在計画されている場所に設置する理由を教えてください。

A 地域開放エリアにつきましては、内容として小中学生等が科学実験を行うことや、くすりのことを理解できるミュージアム、ミーティングルームを案として考えています。小中学生等に有効にご利用していただきたいという考え方からエントランスの近くに設ける予定です。

Q 地域住民への配慮から公園を建設いただけること大変喜ばしいことです。ご購入の土地周辺は、地盤が緩い土地です。万一、災害があった場合は、公園や緑道が使用できるようにしていただきたい。

A 地盤につきましては、設計会社と相談し、必要に応じて液状化についての対策を行っていきます。万一、災害が発生した時には、緑道等に加えて弊社の会議棟が使用できるように検討していきます。

Q 地震等の災害の場合、避難場所として近隣住民が使用する際

に備蓄の食料はどの程度準備される予定ですか。

A 現在、非常食・飲料水などを中心に 200 名の方が 3 日間避難可能な備蓄品を準備する予定としています。

Q 近隣にご配慮をいただき、公園やグラウンドをご用意いただくとのことですが、使用出来るようになるのはいつ頃でしょうか。

A 弊社におきましては、一日も早く完成させ、近隣の皆さまにご使用いただきたいと考えています。工事スケジュールでは、2019 年から着工し 2022 年 6 月頃に竣工予定でございます。

Q 公園の管理については横浜市になるが、照明の形など器具の選定については、どのように対応するのでしょうか。

A 横浜市の指導の下、弊社が設置していくこととなります。設置後の管理については、横浜市になります。

Q 提供公園の設置場所が敷地のどの部分になるか教えてください。

A 西側敷地南西角と東側敷地北東角に設置を予定しています。

Q 西側の緑道の幅は何 m の予定ですか。

A 20 数 m を予定しています。

Q 緑道の開放について、夜間はどのようになりますか。フェンスなどを建てる計画はありますか。

A 敷地境界には、高いフェンスを設けるのではなく、植栽で隔てることを考えています。夜間は安全面から警備上、閉鎖することを検討しています。

Q 地域開放エリアや緑道は、どのような運用を考えていますか。また、どの程度の人数が利用するのでしょうか。土日も開放するのでしょうか。

A 地域開放エリア、緑道の運営や来訪人数につきましては、現在検討中でございます。住民の皆さまと相談しながら決めていきたいと考えています。

Q 地域貢献で公園、緑道を設置いただけることは有難いです。緑道について、夜間も開放するのでしょうか。夜間を開放することによる治安が気になります。

A 夜間は安全面から警備上、閉鎖することを検討していますが、皆さまに相談させていただきながら計画したいと考えます。外灯や監視カメラを設置することも検討していきます。

Q 日立製作所の時、西側敷地・西側道路に面した場所に外灯がありました。今は撤去され、非常に夜間暗い状況になっています。完成まで5年以上あり、事故が起こらないか心配です。外灯を早急に設置していただけないでしょうか。

A 現在、日立製作所の土地のため、弊社から日立製作所に状況をお伝えします。また、2019年以降は弊社の土地になる予定ですので、横浜市にも住民の皆さまからご意見があったこととお伝えするとともに、仮設の外灯にはなるとは思いますが、設置できるように横浜市と協議していきます。

Q 地域開放エリアやグラウンドのクラブハウスにあるミーティングルームは、住民のグループなどで借りることができますか。

A ご質問いただいた施設をどのようにお貸しするか等の運用については、今後検討していきますが、皆さんに有効にご利用いただけるようにしていくことを考えています。

Q 東側敷地グラウンドに設置予定のクラブハウスの管理は中外製薬が行うのでしょうか。

A 中外製薬の責任で運営することになりますが、現在運営方法は未定です。

Q これまで日立製作所のグラウンドを 16 年程度使用させていただきました。公園につきましては横浜市が管理するとお聞きしました。グラウンドについては、どのような管理を考えているのか教えてください。

A 公園につきましては、建設後横浜市にお渡しし、横浜市にて管理していくこととなります。グラウンドにつきましては、弊社の所有となりますので、弊社にて管理・運用していきます。管理・運用方法につきましては、これから検討していきます。可能な限り近隣の皆さまに貢献できるような運用を検討していきたいと考えています。

Q 地域開放のグラウンドの利用調整について、是非地域の団体との意見交換の機会を設けてください。

A 弊社では、横浜研究拠点構築のポリシーとして「地域社会と調和し、環境と共存するとともに、サステナビリティ(持続可能性)と安全に配慮された研究施設をめざす」としております。このポリシーに基づきまして、グラウンドの運用等につきましても近隣にお住いの皆さまとコミュニケーションを図って決めていきたいと考えています。運用について検討を進める時期になりましたら行政(戸塚区役所)や町内会の皆さまにご相談させていただきます。

Q 地域の交流(イベント・祭り)についての計画がありますか。また計画があれば、年間の回数と時期はどのようになりますか。

A 地域の皆さんとの交流に関するイベントについては、近隣の皆さまとご相談させていただきたいと考えております。

Q 東側敷地と西側敷地を結ぶ橋を一般市民も通行出来るようにしていただけますか。

A ご意見・ご要望として承らせていただきます。敷地内を結ぶ橋になりますので、平時には一般の方の通行は難しいと思います。災害時には緊急対応として通行が可能となるよう検討していきます。

Q 中外製薬の進出に対して基本的に大変期待している。地元とも調和を保ちながら様々な活躍を期待したいと考えています。2点ご検討をお願いしたいことがございます。1点目は、横浜市は議員提案による条例が多数あります。是非、その条例の中でもいくつかご参照いただき、その趣旨を出来る限り活用できる活動を展開していただきたいと考えています。例えば、中小企業振興基本条例、がん撲滅対策推進条例、また、現在論議されている官民データ活用推進条例等の主旨を研究していただいてWIN-WINの形で出来る取り組みを行っていただきたい。2点目は、環境影響評価やその後の建築計画、新研究所オープン等、その時点で様々な疑問が出てくると思う。その際の間合せ窓口を定めていただければと考えています。

A ご意見、ありがとうございます。ご案内いただきました条例につきましては、弊社において確認した上で対応を検討していきたいと考えます。また、今後様々なご意見や疑問等が出てくると思います。パンフレットに記載のコールセンターや弊社ホームページに記載の間合せ窓口にご遠慮なさらずお問い合わせをいただきたいと思います。

3. 今後のスケジュール

Q 稼働年月日を教えてください。

A 竣工については、2022 年を予定しております。その他の詳細な計画は今後明らかになり次第ご説明させていただきます。

Q 建設工事を行う日程、時間などが決まっていたら教えてください。また、工事開始後の連絡窓口をつくっていただけますでしょうか。

A 施工会社が決まっていないため、決定した段階で工事計画を説明させていただき、皆さまに相談させていただきながら計画したいと考えます。

Q 緑道や道路の拡幅工事の時期は、建物の建設工事時期のどの段階に行う予定ですか。

A 施工会社が決まった後、工事計画がご案内できるようになりましたら、ご説明させていただきます。

Q 東側敷地の研究施設予定地は、いつ頃計画が出てくる予定でしょうか。また、この計画時にも今回の計画同様、環境影響評価や住民への説明を行う予定があるのか教えてください。

A 今回の計画は、2022 年 6 月ごろに竣工を予定していますが、ご質問の研究施設予定地は第 2 期計画として、第 1 期計画の竣工後に計画を立てていくことが最短かと考えています。この際には、規模によっては環境アセスメントを実施することになりますので、住民の皆さまへの説明会を開催させていただきます。

Q 今後、意見・要望などをどのタイミングでどなたにお伝えすれば良いでしょうか。

A 社内のお問合せ対応として、コールセンターを設置しています。今後も説明会を複数回予定していますので、その際にご意見いただければと考えています。また、ホームページにもお問い合わせフォームを準備しています。

Q 今後の説明会もパネルを使った個別説明の形式で行いますか。

A 今後の説明会については、原則、行政の指導に基づき実施させて頂く事となります。

Q 横浜研究拠点は、大規模な事業所だと思います。現在の中外製薬の事業所から移転してくるのでしょうか。

A 弊社におきましては、現在、研究所は、御殿場・鎌倉・浮間(東京都北区)の3か所がございます。この3研究所を集約するのか継続活用するののかについては、経営環境の変化等をあわせて、現在検討しております。2019年頃までに結論を出す予定でございます。

Q 鎌倉の研究所の場所と規模を教えてください。

A 鎌倉の研究所は、鎌倉市梶原にあり、敷地面積約80,000㎡でございます。

Q 中外製薬は戸塚区に社員寮を建設する予定がありますか。

A 弊社が社員寮を建設する予定はございません。

Q 地域の方は中外製薬への採用を有利にするようなことはないのでしょうか。

A 研究員については国内外から広く募集を行い、採用しております。採用にあたりましては、鎌倉研究所・御殿場研究所において、地域の方を有利にすることは行っておりません。

Q これだけの拠点ですと相当数の方が従事されると思いますが、託児施設などは拠点内に設置されるのでしょうか。

A 託児所の設置に関しては、今後の検討課題とさせていただきます。

Q 建設費はいくらぐらいの予定なのでしょうか。

A 現時点では、設計・計画段階であり、建設・施工会社も決まっておりません。従いまして、お答えすることができません。

Q 東側施設の研究施設予定地を転売するなど無いようにしていただきたいです。そのような計画はありますか。

A 現時点では、計画はございません。

Q 今回の環境アセスメントを中外製薬と一緒に行う会社はどちらになりますか。

A 株式会社日本設計に協力していただき、実施する予定です。

5. その他

Q 西側敷地北西角にある商店の前の信号について、現在設置されていないが、警察や横浜市と交渉する予定がありますか。

A 住民の皆さまと一緒に行政にお願いしていきたいと考えております。

Q 西側敷地の西側道路が 12mに広がるとお聞きしました。車道も広がるのでしょうか。428 号線は、抜け道として利用されていて、走っている車のスピードが速く、信号機も無いので危ない道路です。

A 道路を広げることについては、横浜市と協議して進めています。横浜市からは、車道 7m、歩道を両側にそれぞれ 2.5mと指導されています。従いまして、現在の車道より少し広がることとなります。なお、信号機が無く危ないことや設置の要望につきましては、近隣の住民のご意見として横浜市や警察に伝えていきたいと思っております。

Q 敷地の土壌汚染対策について教えてください。

A 土壌改良は、現在、日立製作所の責任において、対策を行っていただいております。土壌改良を実施された後、2018 年末に土地の引渡しを受ける予定です。

Q 現在、汚染が見つかったということで土壌の改良が行われていると聞いています。改良がきちんと行われ、安全性が確保されたかについて確認出来るのでしょうか。

A 日立製作所が 2 年間モニタリングして横浜市にご報告することになっております。その結果は、公開されることとなります。

Q 隣接の敷地に研究所が出来ることでマンションの売価が下が

った場合、補償していただけますか。

- A 地域のご迷惑になることが無い様に「地域社会と調和し、環境と共存するとともに、サステナビリティ(持続可能性)と安全に配慮した」研究施設としていきます。

Q バイオ医薬品を作る技術である遺伝子組み換えと、食品の遺伝子組み換えはどう違うのでしょうか。

- A バイオ医薬品の研究開発の過程で使用する遺伝子組み換え技術は、主に微生物等にバイオ医薬品の元となる物質を創出する機能を持たせるために実施します。食品(作物)の遺伝子組み換えは、植物などの細胞の遺伝子に組み込み、食品(作物)に新しい性質をもたせる技術と認識しております。よって、両者の違いは、遺伝子組み換え技術の応用分野の違いとなります。

- ※ 既出の Q&A に記載されておりました「街灯」の文言は、「外灯」に修正させていただきました。また、誤字、脱字を訂正しております。

以上